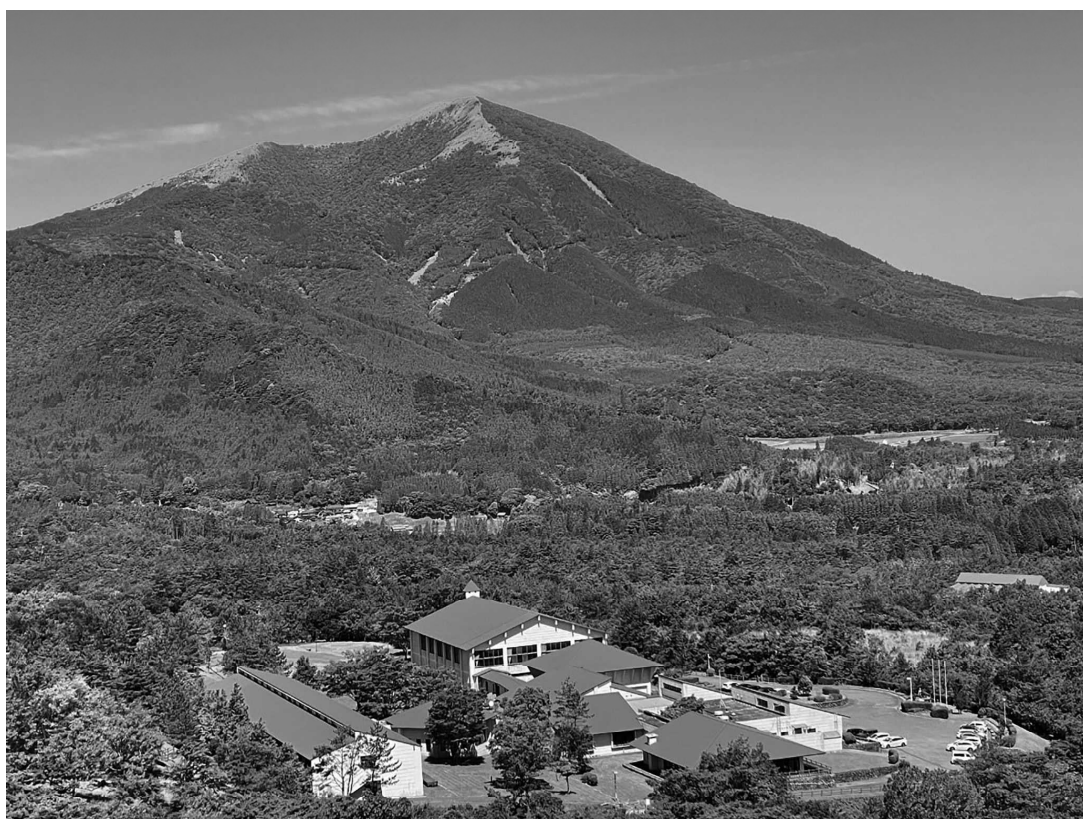


II 宿泊体験活動のてびき

【九重青少年の家編】



九重モデ

1 充実したプログラムにするために

- ①宿泊体験活動プログラム実施に向けて、九重青少年の家職員が学校を訪問し、学校のニーズを聴き、児童と出会う貴重な機会をつくります。
- ②学年または学級の児童の様子や計画したい内容をお聴きしながら、計画・実施・検証につないでいきます。

2 学校のニーズに合ったプログラム

学校の抱えている課題と向き合い、学校のニーズに合ったプログラム作成を目指します。
「お互いを認め合える集団にしたい」「苦しい中でも協働してやり遂げる集団にしたい」等のニーズに有効なサポートを目指します。



3 ゆったり過ごす有意義な時間

児童どうしがゆったりと関わり合う時間は大切です。活動はもちろん、活動のあいま、就寝前の友達との関わりなどは、貴重な時間となります。
活動をよくばり過ぎず、ゆったりと過ごす時間の確保も必要です。



4 自己肯定感を高めていくサポート

構成的グループ・エンカウンターの手法等を活用した仲間づくりをサポートします。
以下3点の振り返りを充実し、自己肯定感の高まりにつなげます。
①他者の良さを見つけ伝える場の設定
②自分の良さを伝えられて自分と向き合う場の設定
③感想交流の場の設定

○モデルプラン1 「自然体験を満喫するプラン」

曜日	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	
【趣旨】 九重の雄大な自然を満喫するとともに、魚を捕獲・処理・火起こし・燻製という自然体験活動にチャレンジし、仲間とのつながりを深める。	1日目					到着	入所式	昼食
2日目	就寝	起床	朝のつどい	朝食	活動準備	バス移動 水生生物観察会	バス移動 魚釣り	昼食
3日目	就寝	起床	朝のつどい	朝食	退所点検	ネイチャークラフト		昼食

○モデルプラン2 「自然体験を満喫するプラン(冬)」

曜日	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	
【趣旨】 九重の雄大な自然を満喫するとともに、スキーにチャレンジし努力することにより達成できる充実感を味わう。	1日目					到着	入所式	昼食
2日目	就寝	起床	朝のつどい	朝食	活動準備	バス移動	スキー体験Ⅰ	昼食
3日目	就寝	起床	朝のつどい	朝食	退所点検	活動準備	ネイチャークラフト	昼食

○モデルプラン3 「九重の自然を知るプラン」

曜日	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	
【趣旨】 自然環境の保護と活用の様子を知り、九重の水と森の様子に触れることにより、自分達の地域の特長を再認識する。	1日目					到着	入所式	昼食
2日目	就寝	起床	朝のつどい	朝食	活動準備	バス移動	※目的に応じた見学場所	昼食
3日目	就寝	起床	朝のつどい	朝食	退所点検	活動準備	ネイチャークラフト	昼食

ルプラン

(オールシーズン)」

13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00			
おにぎり山ウォークラリー	休憩	アスレチック	休憩 燻製作り準備	休憩	夕食	入浴	休憩 プランナタリウム	星空観察	休憩	振り返り	就寝準備	就寝
火起こし体験		休憩	燻製作り体験		夕食	入浴	リラックスタイム	燻製会食	休憩	振り返り	就寝準備	就寝
退所準備	退所式											

5 素晴らしい自然満載 九重フィールド

九重には、自然の素晴らしさを体感できるエリアがたくさんあります。

- ①タテ原湿原散策
- ②男池湧水群周辺散策
- ③牧ノ戸登山口周辺散策
- ④小松地獄・八丁原発電所見学
- ⑤明珠川源流探検
- ⑥地蔵原釣堀センター釣り体験
- ⑦施設周辺の自然観察会・ネイチャーゲーム 等



6 自分へのチャレンジ スキー体験

個に応じた「具体的なめあて」をもたせ、タブレット型端末による自分のすべりを確認、少人数グループの指導等、児童一人ずつに手厚いサポートを行います。



(感想)
・滑れるようになったのを、友達が喜んでくれた。
・今度はスノーボードにもチャレンジしたい。

13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00			
自然観察会 ネイチャーゲーム	休憩	アスレチック	リラックスタイム	夕食	入浴	休憩 プランナタリウム	星空観察	休憩	振り返り	就寝準備	就寝	
スキー体験Ⅱ			バス移動	休憩	夕食	入浴	リラックスタイム	振り返り	就寝準備	就寝		
退所準備	退所式											

7 知識・技術を学べる アクティビティ

専門性の高い指導により、多くのことを学べます。

- ①スキー
- ②火起こし体験
- ③燻製作り体験
- ④所外での自然観察会 等

(感想)
・火は育てていくものだとわかった。
・森は生命のゆりかごだとわかった。

(オールシーズン)」

13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00			
バス移動 長者原ピシターセンター見学	バス移動	小松地獄見学	八丁原発電所見学	バス移動 休憩	夕食	入浴	休憩 プランナタリウム	星空観察	休憩	振り返り	就寝準備	就寝
自然観察会 ネイチャーゲーム	休憩	森林の役割	リラックスタイム	夕食	入浴	仲間づくり	休憩	振り返り	就寝準備	就寝		
退所準備	退所式											

8 他者とつながりあえる アクティビティ

励まし合い協力して取り組むアクティビティは、児童を大きく成長させます。

- ①おにぎり山ウォークラリー
- ②火起こし体験
- ③スキー
- ④ネイチャーゲーム
- ⑤レクリエーション
- ⑥アスレチック
- ⑦ペタンク 等



(1) モデルプラン1「自然体験を満喫するプラン(オールシーズン)」

活動のねらい

- 自然体験活動の楽しさを体感する。
- 他者受容、自己受容を深め、自己肯定感を高める。

1日の流れ

1 日 目	9:00	
	10:00	到着
	11:00	入所式
	12:00	昼食
	13:00	おにぎり山ウォークラリー
	14:00	休憩
	15:00	アスレチック
	16:00	休憩 燻製作り準備
	17:00	休憩
	18:00	夕食・入浴
	19:00	休憩
	20:00	プラネタリウム・星空観察
21:00	休憩 振り返り 就寝準備	
22:00	就寝	
2 日 目	6:00	就寝 起床
	7:00	朝のつどい 朝食
	8:00	活動準備 バス移動
	9:00	水生生物観察会
	10:00	魚釣り体験
	11:00	バス移動
	12:00	昼食(弁当)
	13:00	火起こし体験
	14:00	休憩
	15:00	燻製作り体験
	16:00	休憩
	17:00	夕食・入浴
18:00	リラックスタイム	
19:00		
20:00	振り返り	
21:00	就寝準備	
22:00	就寝	
3 日 目	6:00	就寝 起床
	7:00	朝のつどい 朝食
	8:00	退所点検 活動準備
	9:00	
	10:00	ネイチャークラフト
	11:00	
	12:00	昼食
	13:00	退所準備 退所式 退所

1日目

【おにぎり山ウォークラリー】

コマ図と地図を頼りに、ポイントごとのクイズを解きながら頂上を目指し、友だちと協力して取り組む活動です。

- ・グループの友だちと一っしょに協力して取り組む楽しさを体感する。

(特別活動 学級活動 よりよい人間関係の形成)

苦しい時、〇〇さんが、
励ましてくれてうれしかった。



【アスレチックチャレンジ】

九重アスレチックコースを活用し体を動かす心地よさを味わい、友だちと関わり合う楽しさを体感できる活動です。

- ・グループの友だちと一っしょに協力して取り組む楽しさを体感する。

(特別活動 学級活動 よりよい人間関係の形成)

【プラネタリウム・星空観察】

星空の美しさや素晴らしさを体感し、天体や宇宙に対する興味や関心を高める活動です。

- ・星空の美しさや素晴らしさを友だちと一緒に体感し、天体や宇宙に対する興味や関心を高める。

(特別活動 学級活動 よりよい人間関係の形成)

- ・月や星の位置の変化や時間の経過に着目して月や星の特徴をとらえる。(4年理科 B生命・地球)

- ・月と太陽の位置関係を理解し月の形の見え方と月との位置関係をとらえる。(6年理科 B生命・地球)

◇プラネタリウムメニュー

- ・入所日の星空解説
- ・四季の星座番組
- ・特徴のある星及び星座
- ・宇宙の成り立ち、地球上の生命と天体の関係
- ・月食・日食 等

◇星空観察メニュー

- ・入所日の実天観測
- ・四季の星座
- ・惑星(木星、土星、火星)
- ・特徴のある星及び星座
- ・月の観察 等



先生方の声

- ・友だちの良さに気づかせ、協力することの大切さを実感させることができた。
- ・困難な課題にチャレンジさせ、達成感を味わわせることができた。
- ・意欲、リーダーシップ、責任感、規律の向上等につながった。

2日目

【水生生物観察会・魚釣り体験】

地藏原釣堀センター横の川で水生生物を捕獲・観察する活動と、ヤマメの生態について学ぶ活動です。

- ・水生生物の雌雄を観察して見分ける。
(5年理科 動物の誕生)
- ・グループの友だちと協力する楽しさを実感する。
(特別活動 学級活動 よりよい人間関係の形成)

魚の引きは強烈！ひっぱられてビックリ！



魚のうろこは身を守るためにあるんだね。

【火起こし体験】

人が火を使うようになった歴史にふれ、太古へのロマンを抱きながら、友だちと協働して火を起こす体験活動です。※まいぎり式火起こし器等の活用

- ・友だちと協働して火を起こす体験活動に取り組む。
(特別活動 学級活動 よりよい人間関係の形成)
- ・太古の人々が、調理、暖をとる、獣から身を守る等、生きるために火を起こすようになった歴史について知る。
(6年社会 狩猟・採集や農耕の生活)



火を起こすのは大変だとわかった。

【燻製作り体験】

燻製という食物保存方法を見出した先人の知恵を知るとともに、燻製の仕方を学ぶ体験学習です。

- ・魚の下処理をする中で、釣ったヤマメの雌雄を見分け、その卵には育つための養分が含まれていることを知る。
(5年理科 動物の誕生)
- ・先人の生活を向上させようとする努力により、燻製という食物保存方法を見出した先人の知恵を知る。
(6年社会 狩猟・採集や農耕の生活)
(道徳 伝統と文化の尊重の具体例)

ヤマメは顔の骨格やひれの特徴で雌雄が分かるということを知った。



昔の人が燻製を思いついたのはすごい。

3日目

【ネイチャークラフト】

教育合宿で一番心に残ったことを振り返り、思いを込めた自然素材をモチーフとした作品を作る活動です。

- ・作品に込める思い（一番心に残っていることを一文字で表す）を決め、作品に表すことができる。
(図工 A表現)
- ・作りたい形や文字を決め、創造力豊かに作業することができる。
(図工 A表現)
- ・他者の作品の良い点を見つけ、全体の場で紹介する。
(特別活動 学級活動 よりよい人間関係の形成)
(図工 B鑑賞)

◇ネイチャークラフト

焼き板工作
勾玉
どんぐりアート
バードコール



感想

- ・自分は作品のテーマに「友」という文字を選びました。この3日間で友だちの大切さを強く感じたからです。
- ・勾玉は貴重な物だったと初めて知りました。
- ・歴史は続いていることがわかりました。

【振り返り】

他者受容、自己受容の場を設定した感想交流

- ・他者の良さや他者との関わりでうれしかったこと等の感想交流を通して、他者受容と自己受容を深められる活動

(特別活動 学級活動 よりよい人間関係の形成)

自分の良いところをグループの友だちから言ってもらえたのはうれしかった。

友だちの良いところをたくさん見つけることができた。



(2) モデルプラン2 「自然体験を満喫するプラン（冬）」

活動のねらい

- めあてをもちスキーにチャレンジし、達成感を味わうことができる。
- 他者受容、自己受容を深め、自己肯定感を高める。

1日の流れ

1 日 目	9:00	
	10:00	到着
	11:00	入所式
	12:00	昼食
	13:00	自然観察会 ネイチャーゲーム
	14:00	休憩
	15:00	アスレチック
	16:00	リラックスタイム
	17:00	
	18:00	夕食・入浴
	19:00	休憩
	20:00	プラネタリウム・星空観察
2 日 目	21:00	振り返り 就寝準備
	22:00	就寝
	6:00	就寝 起床
	7:00	朝のつどい 朝食
	8:00	活動準備 バス移動
	9:00	
	10:00	スキー体験Ⅰ
	11:00	
	12:00	昼食
	13:00	
	14:00	スキー体験Ⅱ
	15:00	
3 日 目	16:00	バス移動 休憩
	17:00	
	18:00	夕食・入浴
	19:00	
	20:00	リラックスタイム
	21:00	振り返り 就寝準備
	22:00	就寝
	6:00	就寝 起床
	7:00	朝のつどい 朝食
	8:00	退所点検 活動準備
	9:00	
	10:00	ネイチャークラフト
11:00		
12:00	昼食	
13:00	退所準備 退所式	
14:00	退所	

1日目

【自然観察会・ネイチャーゲーム】

施設内の小川や観察の森周辺で、冬の九重の自然とふれあうことの楽しさを体感できる活動です。

○活動

- ・五感を使ったフィールドビンゴ
- ・川の水にふれ、きれいで温度が一年中安定している理由を考える。
- ・魚を捕獲し、観察する。
- ・川と、森や生き物のつながりを考える。
- ・小川は筑後川の源流であり、人々のくらしとつながりがあることを知る。



(5年理科 生物同士のかかわり)

(5年社会 気候の特色と人々のくらし)

【アスレチックチャレンジ】

アスレチックを活用し体を動かす心地よさを味わい、友だちと関わり合う楽しさを体感できる活動です。



- ・グループの友だちといっしょに協力して取り組む楽しさを実感する。

(特別活動 学級活動 よりよい人間関係の形成)

【プラネタリウム・星空観察】

星空の美しさや素晴らしさを体感し、天体や宇宙に対する興味や関心を高める体験活動です。

○プラネタリウムメニュー

- ・入所日の星空解説
- ・四季の星座番組（冬）
- ・特徴のある星及び星座
- ・宇宙の成り立ち、地球上の生命と天体の関係
- ・オリオン座大星雲 プリアデス星団
- ・離陸疑似体験 等



○星空観察メニュー

- ・入所日の実天観測
- ・四季の星座（冬）
- ・オリオン座大星雲やプレアデス星団
- ・惑星（木星、土星等）
- ・冬のダイヤモンド
- ・月の観察 等



先生方の声

- ・すべれるようになりたいという思いを実現しようと、努力している子どもの姿を見ることができてうれしかった。
- ・スキー体験は子どもにとって、非日常の楽しい体験であり、指導のもと努力が報われる体験活動であると感じた。
- ・活動ごとに振り返りを行うことにより、他者受容・自己受容の高まりが見られた。

2日目

【スキー体験】

めあてをもって基本練習に取り組み、スキーをすべれるようになり自己肯定感を高めることにつながる活動です。

○スキー体験Ⅰ（基礎編）のスマールステップ

- ・スキー板をつける はずす
- ・転ぶ 起き上がる
- ・すべる 止まる（ハの字）
- ・方向を変える（よける）
（低学年から 体育 体づくり運動）

○スキー体験Ⅱ（応用編）

- ・リフトに乗る 降りる
- ・大きく曲がる
- ・小さく曲がる
- ・スピードを出す ゆるめる
- ・距離をのばす
（低学年から 体育 体づくり運動）
（特別活動 学級活動 よりよい人間関係の形成）



○スキー体験の振り返り

- ・タブレット型端末の映像や、指導者のアドバイスをもとに、自分のすべりを振り返る。
- ・自分のできているところと苦手なところを振り返り、強化したいコースを選ぶ。
- ・グループの友だちのよい点を見つけ、互いに伝え合う。
- ・他者の意見を聴きながら、自分の頑張ることができた点や課題を見つける。
（特別活動 学級活動 よりよい人間関係の形成）

最初はこけてばかりだったけど、だんだんすべれるようになってうれしかった。

友だちから「ちゃんと止まれるようになったね」と言ってもらってうれしかった。



3日目

【ネイチャークラフト】

教育合宿で一番心に残ったことを振り返り、思いを込めた自然素材をモチーフとした作品を作る活動です。

- ・作品に込める思い（一番心に残っていることを一文字で表す）を決め、作品に表すことができる。
- ・作りたい形や文字を決め、創造力豊かに作業することができる。（図工 A表現）
- ・他者の作品の良い点を見つけ、全体の場で紹介する。
（特別活動 学級活動 よりよい人間関係の形成）
（図工 B鑑賞）

○どんぐりアート

～森林のめぐみを使った記念品作り～

秋には様々な森林のめぐみがある。

ドングリ、マツボックリ、ヤシャブシなどの木の実や、落ち葉等を使って、記念品作りにチャレンジしよう。

【作り方】

- ①作りたいものを決める。
- ②材料を選ぶ。
- ③作りたいものを作る。
 - ・木の実に絵などをかく。（かきたい人）
 - ・ホットボンドでつけていく。



【振り返り】

他者受容、自己受容の場を設定した感想交流

- ・他者の良さや他者との関わりでうれしかったこと等の感想交流を通して、他者受容と自己受容を深められる活動

（特別活動 学級活動 よりよい人間関係の形成）

(3) モデルプラン3 「九重の自然を知るプラン（オールシーズン）」

活動のねらい

- 九重の豊かな自然を知り、その自然環境を活かした営みがあることを理解する。
- 他者受容、自己受容を深め、自己肯定感を高める。

1日の流れ

1 日 目	9:00	
	10:00	到着
	11:00	入所式
	12:00	昼食
	13:00	バス移動 長者原ビジターセンター見学
	14:00	バス移動
	15:00	小松地獄見学
	16:00	八丁原発電所見学
	17:00	バス移動・休憩
	18:00	夕食・入浴
	19:00	休憩 プラネタリウム・星空観察
	20:00	休憩
21:00	振り返り 就寝準備	
22:00	就寝	
2 日 目	6:00	就寝 起床
	7:00	朝のつどい 朝食
	8:00	活動準備 バス移動
	9:00	
	10:00	見学場所 ※目的に応じた見学場所
	11:00	バス移動
	12:00	昼食
	13:00	自然観察会 ネイチャーゲーム
	14:00	休憩
	15:00	森林の役割
	16:00	リラックスタイム
	17:00	
18:00	夕食・入浴	
19:00	仲間づくり	
20:00	休憩	
21:00	振り返り 就寝準備	
22:00	就寝	
3 日 目	6:00	就寝 起床
	7:00	朝のつどい 朝食
	8:00	退所点検 活動準備
	9:00	
	10:00	ネイチャークラフト
	11:00	
	12:00	昼食
	13:00	退所準備 退所式 退所

1日目

※見学場所の特徴です。

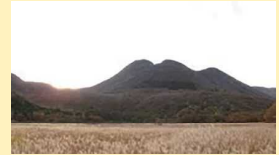
【長者原ビジターセンター見学】

長者原には、湿地や沼などを守るラムサール条約に登録されている「タデ原湿原」があります。

春から夏には青い草がしきつめられた緑の絨毯のよう

です。

また、九重の四季折々の自然を紹介してくれる映像も視聴でき、自然観察指導員がレクチャーもしてくれます。



【小松地獄見学】

小松地獄は標高1,100mにあります。

蒸気が吹き上がり、熱泥が噴出されていて、まるで地獄のようということから小松地獄と呼ばれています。

この自然のエネルギーを体感できます。生玉子を持参すれば、ゆで玉子を作ることもできます。



【八丁原発電所見学】

日本で一番大きな地熱発電所です。

くじゅう連山や阿蘇くじゅう国立公園の山々に囲まれ、火山による地熱エネルギーに恵まれた場所にあり、地中から蒸気を取り出し電気を作っています。



天候・昼夜を問わず、同じ出力で発電し続けることができ、発電に使った高温の蒸気や熱水を、農業用ハウスや民間の暖房などに再利用できます。

九重は、自然が豊かなんだね。自分の住んでいるところにはどんな自然があるのかなと思いました。

地熱発電所の電気は、遠くまで運んでいることにびっくりしました。



先生方の声

- ・豊かな森で活動でき、子どもたちは大満足であった。
- ・九重の豊かな自然を理解させた上で、自分たちの地域を見つめ直させることができた。
- ・森林の中での探検活動で、予想以上に多くのことを発見していた子どもたちに驚いた。

2日目

※目的に応じた見学場所が選べます。

【男池湧水群自然観察会】

男池の水は、美味しいことでも有名です。

絶え間なく湧く水の量は1日2万トン。水温は一年中12.6度。生きものに必要なミネラルという栄養がたくさん含まれています。

男池のまわりにはブナやカエデの木の森があり、長い間につもった落ち葉で土はフカフカです。この森が蓄えた水が、長い年月をかけてしみ出てきたものが、この美しく美味しい水になります。

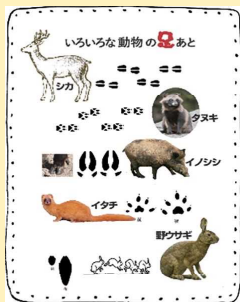


【冬山体験】

九州の屋根 くじゅう連山の入口 牧ノ戸峠！
牧ノ戸峠は標高1,330mにあり、くじゅう連山にアタックする最も多くの人利用する登山口です。

春から秋にかけて、ここからは、久住山、中岳、星生山などへの登山客でにぎわいます。

少し歩くと、めずらしいものが見つかります。



冬の牧ノ戸ではどんなものを見つけられるでしょうか。

また、九重には多くの生き物がくらしています。

どんな生き物が、どんなくらしをしているのか動物のフィールドサインをさがしてみるのもおもしろいです。

【源流探検・森林の役割】

野上川は、玖珠川、筑後川とつながる川です。その源流部は、地面から水が染み出ている所からスタートします。そこには森林が生まれ、あらゆる生き物のゆりかごとなっています。その森の探検は、様々な発見を与えてくれます。また、森林の役割について学び、森林の大切さが実感できる学習となります。

3日目

【ネイチャークラフト】

教育合宿で一番心に残ったことを振り返り、思いを込めた自然素材をモチーフとした作品を作る活動

- ・作品に込める思い（一番心に残っていることを一文字で表す）を決め、作品に表すことができる。
- ・作りたい形や文字を決め、創造力豊かに作業することができる。（図工 A表現）
- ・他者の作品の良い点を見つけ、全体の場で紹介する。（特別活動 学級活動 よりよい人間関係の形成）
（図工 B鑑賞）

○バードコール

～鳥とお話しよう～

バードコールとは鳥の声を出す道具のことで、鳥笛とも呼ばれています。

木の枝とボルトを使って簡単に作ることができます。



できたバードコールのボルトをこすると、小鳥の鳴き声に似ていて、この音で鳥が集まってきます。

うまくすれば何種類かの鳥の声を出すこともできるそうです。

バードウォッチングも楽しめます。

【作り方】

- ①桜の木の枝をのこぎりです。
- ②ボルトをさしこむ穴をあける。
- ③ボルトをさしこみ、音が出るまでボルトを回し続ける。
- ④最後にひもをつけたらできあがりです。



【振り返り】

他者受容、自己受容の場を設定した感想交流

- ・他者の良さや他者との関わりで嬉しかったこと等の感想交流を通して、他者受容と自己受容を深められる活動

（特別活動 学級活動 よりよい人間関係の形成）

Ⅱ－２ 教科等に関連付けた 体験活動プログラム例

【九重編】



(1) 5年 総合的な学習の時間「自分達の地域の特長を知ろう」

活動のめあて	九重の水と森林の様子に触れ、その自然環境保護と活用の様子を知った上で、自分たちの地域の特長を再認識する。
--------	--

◇ 学習過程と活動の流れ

学校での学習【10時間】

課題の発見

- 九州の屋根と言われる九重の特長について調べる。
(小松地獄、八丁原発電所見学、タテ原湿原、男池湧水群等)
- 自分たちの地域との共通点やちがいを調べようという意識をもつ。

課題解決方法の検討、計画、実践

- 小松地獄見学
- 八丁原発電所見学
- 男池湧水群周辺散策
- 湧水と他の水の利き水体験



施設での学習【7時間】

課題解決に向けた実践活動

- 小松地獄見学を通して、地熱エネルギーについて理解する体験活動をする。
- 地熱を利用した発電の仕組みと、地熱エネルギーが暮らしを支えていることを理解する八丁原発電所を見学する。
- 男池には湧水が育む豊かな森林があり、人々の暮らしと密接な関係があることを理解できる男池湧水群周辺を散策する。
- 湧水と他の水の利き水体験をする。

実践活動の評価の視点

- 地熱エネルギーが人々の暮らしを支えていることを理解する。
- 森林と水は密接な関係があり、人々の暮らしとのつながりが深いことを理解できる。



学校での学習【5時間】

実践活動の改善

- 見学場所で取り組んだ活動についてまとめる。
- ・地熱エネルギーと人々の暮らしについてまとめる。
- ・湧水が育む豊かな森林と人々の暮らしについてまとめる。
- ・男池の湧水が育む自然を自分たちの地域の自然と比較し、相違点や共通点を見つける。
- ・自分たちの住んでいる地域の特長について考える。
- 活動を通して発見したこと、気づいたことを整理し、新たに生まれた疑問について調べる。

家庭、地域での実践

- 他地域（九重の自然）と比較する中で、自分たちの地域の特長を再認識し、まとめたことを下級生や保護者等に発表する。

◇ 育成する資質・能力

知識及び技能


- ・五感を働かせて自然を感じる学習活動を通して、湧水、森林、地熱と人々の暮らしについて理解したり、安全に活動するための技能を身に付けたりすることができるようにする。

思考力、判断力、表現力等

- ・自然環境について課題を設定し、解決のための手段を選択したり、既習事項と結び付けて考えたりするなど適切に課題解決し、学んだことを発信することができるようにする。

学びに向かう力、人間性等

- ・主体的・協働的に課題を解決したり、発見した事柄や感動を共有したりする中で、自然の素晴らしさを感じ、身近な自然環境を大切に守っていこうとする態度を育てることができる。





 **ワンポイント**

九重の特長を理解することにより、自分たちの地域の特長に気づくことができます。

①自然観察会（施設フィールド活用編）

概要	施設内の小川や森林等のフィールドを活用した自然とふれあう活動を通して、その楽しさや素晴らしさを体感する活動である。	
ねらいとして考えられること	<p>①フィールドビンゴを通して、樹木の観察の仕方を知り、樹木には様々な特徴があることに気づくことができる。</p> <p>②小川の水温や水質を調べたり、川と森林の関わりについて考えることを通して、小川の水は季節風による雨水や土壌により水質にちがいがあることを理解するとともに、植物は周囲の環境と関わって生きていることを理解する。</p> <p>③森林がきれいな水を育み、農業や工業等の営みに貢献していることを理解できる。</p>	
対象及び教科等例	中学年から（理科、社会、総合的な学習の時間）	
人数	40名（複数クラスになれば指導者を増員し対応可）	
場所	所内フィールド（第1・2の川、観察の森周辺、東屋）	
時間	1時間	
指導	進行：各学校及び団体 指導：自然観察専門の外部講師及び九重青少年の家職員	
活動時期	通年	
経費	なし	
利用者準備物	濡れてもよい服装、軍手	
活動の流れ・引率者の役割等	活動前	<p>①所要時間と指導内容を確認する。</p> <p>②トイレに行かせる。</p>
	活動中	<p>①五感を使ったフィールドビンゴの活動の説明を聞かせる。</p> <p>②小川の水温や水質を調べさせ川と森林の関わりについて考えさせることにより、植物は周囲の環境と関わって生きていることを理解させる。</p> <p>③森林がきれいな水を育み、人々の暮らしに貢献していることを理解させる。</p>
	活動後	<p>・感想発表を行い、他者との感想交流を通して、他者の様々な感想に触れ自分の考えを広げたり、他者の良さを認めたりすることができるようにする。</p>
安全上の留意点	<p>・異なる季節で活動させるので、フィールドに蜂や動物等の危険がないか事前踏査を綿密に行う。</p> <p>・活動してよい範囲や、蜂・動物等と遭遇した時の対処の仕方を事前指導しておく。</p>	
活動の様子	 <p>森林フィールド</p>	 <p>川フィールド</p>
	 <p>活動の様子①</p>	 <p>活動の様子②</p>





②自然観察会（男池湧水群散策編）

概要	男池湧水群における自然観察会等を通して、自然とふれあう楽しさや自然の素晴らしさを体感する活動である。		
ねらいとして考えられること	①男池湧水群周辺散策を通して、豊かな森が人々の暮らしと密接な関係にあることを理解できる。 ②五感を使った自然体験を通して、新たに発見したことや感動したことなどを、指導者や友だちに伝えることができる。 ③五感を使った自然体験を通して、自ら設定した学習課題の解決を図る。		
対象及び教科等例	中学年から（理科、社会、総合的な学習の時間）		
人数	40名（複数クラスになれば指導者を増員し対応可）		
場所	九重町 男池湧水群周辺（施設からバスで約30分）		
時間	2時間30分		
指導	進行：各学校及び団体 指導：外部講師及び九重青少年の家職員		
活動時期	通年		
経費	なし		
利用者準備物	活動しやすい服装、軍手		
活動の流れ・引率者の役割等	活動前	①所要時間と指導内容を確認する。 ②トイレに行かせる。	
	活動中	①男池湧水群と、くじゅう山系、大分川の関係についての説明を聞かせる。 ②男池湧水の試飲や、湧水と森林の関わりについて考えさせた上で、男池の森林散策の様子を見守る。 ③標高、土壌のちがいにより、特徴ある男池の森林がきれいな水を育み、人々の暮らしに貢献していることを理解させる。	
	活動後	・感想発表を行い、他者との感想交流を通して、他者の様々な感想に触れ自分の考えを広げたり、他者の良さを認めたりすることができるようにする。	
安全上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 異なる季節で活動させるので、フィールドに蜂や動物等の危険がないか事前踏査を綿密に行う。 活動してよい範囲や、蜂・動物等と遭遇した時の対処の仕方を事前指導しておく。 		
活動の様子	 <p>遊歩道</p>	 <p>男池湧水群</p>	 <p>森林の巨木</p>
	 <p>かくし水</p>	 <p>活動の様子①</p>	 <p>活動の様子②</p>

③自然観察会（源流体験編）

概要	筑後川源流となる野上川における自然観察会等を通して、自然とふれあう楽しさや自然の素晴らしさを体感する活動である。	
ねらいとして考えられること	①野上川源流及び森林探検を通して、水が森林や生命を育んでいることを理解できる。 ②五感を使った自然体験を通して新たに発見したことや感動したことなどを、指導者や友だちに伝えることができる。 ③五感を使った自然体験を通して、自ら設定した学習課題の解決を図る。	
対象及び教科等例	高学年から（理科、社会、総合的な学習の時間）	
人数	40名（複数クラスになれば指導者を増員し対応可）	
場所	野上川源流部（九重町大字田野 寺床国有林周辺 施設からバスで約20分）	
時間	2時間30分	
指導	進行：各学校及び団体 説明：外部講師及び九重青少年の家職員	
活動時期	通年	
経費	なし	
利用者準備物	活動しやすい服装（森林散策用靴と小川散策用の長靴の2種類準備が望ましい） 軍手	
活動の流れ ・ 引率者の役割等	活動前	①所要時間と指導内容を確認する。 ②トイレに行かせる。
	活動中	①小川での生き物の見つけ方についての説明を聞かせる。 ②小川の水温・水質を含む周辺環境を調べさせ、生き物が生息する理由を考えさせる。 ③森林での生き物の見つけ方についての説明を聞かせる。 ④外部講師が行う土の保水実験、木の葉の分解シート、土壌生物の観察の実習をさせる補助を行う。
	活動後	・感想発表を行い、他者との感想交流を通して、他者の様々な感想に触れ自分の考えを広げたり、他者の良さを認めたりすることができるようにする。
安全上の留意点	・異なる季節で活動させるので、フィールドに蜂や動物等の危険がないか事前踏査を綿密に行う。 ・活動してよい範囲や、蜂・動物等と遭遇した時の対処の仕方を事前指導しておく。	
活動の様子	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>水生生物捕獲</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>魚捕獲</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>水質検査</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>森林散策①</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>森林散策②</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>保水実験</p> </div> </div>	

④九重の自然（長者原ビジターセンター 小松地獄 八丁原発電所）

概要	長者原ビジターセンター、小松地獄、八丁原発電所の見学を通して、九重の特徴を学ぶ活動である。	
ねらいとして考えられること	①長者原ビジターセンターにおいて、四季折々の九重の自然の特徴を理解することができる。 ②小松地獄において、噴き上がる地熱エネルギーの見学や地熱を利用した簡単な蒸し料理を食すことにより、地熱エネルギーを身近に感じることができる。 ③八丁原発電所において、地熱エネルギーを電力に変えるシステムを学ぶとともに、地熱エネルギーが人々の生活を支えていることを理解することができる。	
対象及び教科等例	中学年から（理科、社会、総合的な学習の時間）	
人数	40名（複数クラスになれば指導者を増員し対応可）	
場所	長者原ビジターセンター→（移動15分）→小松地獄→（移動5分）→八丁原発電所→（施設へ移動10分）	
時間	長者原ビジターセンター（1時間） 小松地獄（40分） 八丁原発電所（1時間）	
指導	進行：各学校及び団体 説明：長者原ビジターセンター（センター職員） 小松地獄（九重施設職員） 八丁原発電所（発電所職員）	
活動時期	通年	
経費	なし	
利用者準備物	活動しやすい服装	
活動の流れ・引率者の役割等	活動前	①所要時間と指導内容を確認する。 ②トイレに行かせる。
	活動中	①長者原ビジターセンターにおいて、四季折々の九重の自然の特徴についての説明を聴かせる。 ②小松地獄において、噴き上がる地熱エネルギーの見学や地熱を利用した簡単な蒸し料理の仕方の説明を聴かせ、安全に調理できるようサポートする。 ③八丁原発電所において、地熱エネルギーを電力に変えるシステムの説明・見学を安全に活動できるようサポートする。
	活動後	・感想発表を行い、他者との感想交流を通して、他者の様々な感想に触れ自分の考えを広げたり、他者の良さを認めたりすることができるようにする。
安全上の留意点	・異なる季節で活動させるので、フィールドに蜂や動物等の危険がないか事前踏査を綿密に行う。 ・活動してよい範囲や、蜂・動物等と遭遇した時の対処の仕方を事前指導しておく。	
活動の様子	 三俣山全景	 タデ原湿原木道
	 小松地獄	 八丁原発電所

⑤ランドアート

概要	施設内の森林フィールドにおいて、自然の産物（木、葉、草、石、土等）を活用し、グループで協議しながら作品を創る活動である。	
ねらいとして考えられること	①施設森林フィールドにおいて、四季折々の九重の自然の特徴を理解することができる。 ②グループ内で意見交換をしながら作品を創る活動を通して、協力して創り上げる達成感を味わうことができる。	
対象及び教科等例	中学年から（図工、特別活動）	
人数	40名（単学級が望ましい）	
場所	所内フィールド（第1・2の川、観察の森周辺）	
時間	2時間	
指導	進行：各学校及び団体 指導：外部講師	
活動時期	通年	
経費	なし	
利用者準備物	活動しやすい服装	
活動の流れ ・ 引率者の役割等	活動前	①所要時間と指導内容を確認する。 ②トイレに行かせる。
	活動中	①四季折々の九重の自然の特徴についての説明を聴かせる。 ②自然物を使って作品創りをする「ランドアート」の取り組み方についての説明を聴かせる。 ③活動の様子を観察し、良い点をほめたり他のグループにその良さを紹介したりしながら、活動意欲を高める。
	活動後	・感想発表を行い、他者との感想交流を通して、他者の様々な感想に触れ自分の考えを広げたり、他者の良さを認めたりすることができるようにする。
安全上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる季節で活動させるので、フィールドに蜂や動物等の危険がないか事前踏査を綿密に行う。 ・活動してよい範囲や、蜂・動物等と遭遇した時の対処の仕方を事前指導しておく。 	
活動の様子	 活動の様子①	 活動の様子②
	 グループの作品①	 グループの作品②

(2) 5年 総合的な学習の時間「先人の知恵を学ぼう」

活動の めあて	火を活用し食物を長期保存する技術を生み出した古代人の生活の知恵を学ぶとともに、友だちと目的に向かって協力することの充実感を味わい、今後の生活に生かす。
------------	---

◇ 学習過程と活動の流れ

学校での学習【2時間】

課題の発見（課題の設定）

- ・古代人の生活について調べる。
- ・火起こし及び燻製作り体験への興味関心をもつ。

課題解決方法の検討、計画、実践

- ・火起こしと燻製作りについて調べる。
- ・燻製にしたい食材を決め、準備する。
- ・火を使うので、安全な活動となるための注意点を話し合う。



施設での学習【5時間】

課題解決に向けた実践活動

- ・火を使うようになった古代人が移住から定住へと変化していった歴史と、食物を保存するようになった歴史背景を学ぶ。
- ・まいざり式火起こしの仕方を学び、実践する。
- ・起こした火を大きなたき火にしていく。
- ・燻製作り手順（下処理、塩漬け、塩出し、乾燥、燻製、熟成）を学び、実践する。
- ・チップの特性を学び、燻製器を活用し燻製作りを実践する。
- ・できた燻製を食し、感想を出し合う。

実践活動の評価の視点

- ・火起こし、燻製は先人が生活を向上させようと努力してきた賜物であることを理解する。
- ・現在の便利な生活は、生活を向上させようと努力してきた人類の歴史であることを理解できる。
- ・活動の様子を振り返り、友だちの良かった点を伝える。



学校での学習【2時間】

実践活動の改善

- 火起こし・燻製作り体験についてまとめる。
 - ・古代人のくらしと火起こしの歴史
 - ・燻製作りができた背景とその方法
 - ・感想 等
- 活動を通して発見したこと、気づいたことを整理し、新たに生まれた疑問について調べる。

家庭、地域での実践

- 火起こし・燻製作りで学んだことをまとめ、下級生や保護者等に発表する。

◇ 育成する資質・能力

知識及び技能


- ・火起こしの仕方を学び、友だちと協力して火を起こすことにより、目的に向かって協力することの充実感を味わうことができる。
- ・火を活用するようになった人類の歴史を知った上で、食物を長期保存する技術を生み出した古代人の生活の知恵を理解することができる。

思考力、判断力、表現力等

- ・火起こし・燻製作りの体験をとおして、生活をよりよいものにしようとした古代人の知恵を学び、学んだことを第三者にわかりやすくまとめ、発表することができる。

学びに向かう力、人間性等

- ・主体的・協働的に取り組み、協力することの楽しさや課題を解決する喜びを体感し、今後の生活に生かそうとする態度を育てることができる。


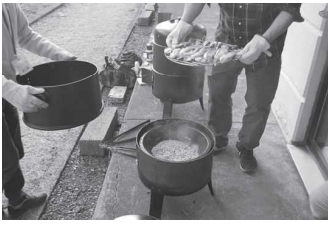


 **ワンポイント**

火を起こすことの大変さや、協力することの大切さを実感できる貴重な体験になります。

①火起こし体験

概要	古代人にとっての火起こしの意義を知り、火起こしをすることにより、古代人の生活の知恵を理解することができる体験活動である。	
ねらいとして考えられること	①火を活用するようになった人類の歴史を知った上で、火を活用し生活を向上させようと努力した古代人の生活の知恵を理解することができる。 ②火起こしの仕方を学び、友だちと火を起こすことにより、目的に向かって協力することの充実感を味わうことができる。	
対象及び教科等例	高学年から（社会、特別活動）	
人数	最大40名（5名程度の班活動）	
場所	研修室及び研修室外側	
時間	2時間	
指導	進行：各学校及び団体 指導：火起こし専門の外部講師及び九重青少年の家職員	
活動時期	通年	
経費	なし	
利用者準備物	汚れてもよい服装、軍手	
活動の流れ ・ 引率者の役割等	活動前	①所要時間と指導内容を確認する。 ②トイレに行かせる。 ③古代人にとっての火起こしの重要性についての施設職員の説明を理解させる。
	活動中	①火起こしの仕方についての説明を聞かせる。 ②安全な火の扱い方について理解させる。 ③火起こしは、協力して根気強く行うことが重要なので、各班への指導助言を綿密に行う。
	活動後	①感想発表を行い、他者との感想交流を通して、他者の様々な感想に触れ自分の考えを広げたり、他者の良さを認めたりすることができるようにする。 ②使った道具の片付けを行うよう指示する。
安全上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・やけどをしないための安全指導を徹底するとともに、燃えやすい化学繊維の服装は避けるよう事前に伝えておく。 ・安全な間隔を確保した作業場所を準備しておく。 ・ナタ等の刃物を安全に使っているか巡視・指導を丁寧に行う。 	
活動の様子	 <p>活動の様子①</p>	 <p>活動の様子②</p>
	 <p>活動の様子③</p>	 <p>活動の様子④</p>

②燻製作り体験

概要	食物を長期保存する技術を生み出した古代人の生活の知恵を理解する体験活動である。	
ねらいとして考えられること	①持って来た食材を洗ったり水切りをしたりする活動で下準備の過程を知るとともに、正しい燻製の仕方を知る。 ②食物を長期保存する技術を生み出した古代人の生活の知恵を理解することができる。 ③火起こしの仕方を学び、友だちと火を起こすことにより、目的に向かって協力することの充実感を味わうことができる。	
対象及び教科等例	高学年から（社会、理科、家庭、特別活動）	
人数	最大40名（5名程度の班活動）	
場所	研修室及び研修室外側	
時間	2時間	
指導	進行：各学校及び団体 指導：九重青少年の家職員	
活動時期	通年	
経費	なし	
利用者準備物	食材（燻製に適した食材 水分を多く含む食材については事前に水分を除去しておく必要がある）、汚れてもよい服装、軍手	
活動の流れ・引率者の役割等	活動前	①所要時間と指導内容を確認しておく。 ②トイレに行かせる。 ③火を活用するようになった人類の歴史を知らせ、食物を長期保存する技術を生み出した古代人の生活の知恵である燻製作りにチャレンジすることを伝え、活動意欲を高めさせる。
	活動中	①燻製作りの仕方についての説明を聞かせ、手順を理解させる。 ②チップの選択、食材の水切り、味付け等の作業手順を聞かせ、燻製作りをさせる。 ③火入れ、温度管理・調整を行い燻製作りに取り組ませる。燻製作りは、協力して根気強く行うことが重要なので、各班への指導助言を綿密に行う。
	活動後	①燻製品を食した後、感想発表を行い、他者との感想交流を通して、他者の様々な感想に触れ自分の考えを広げたり、他者の良さを認めることができるようにする。 ②使った道具の片付けを行うよう指示する。
安全上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 安全な間隔を確保した作業場所を準備しておく。 協力して刃物や火を扱う活動なので、安全指導を徹底する。 	
活動の様子	 <p>活動の様子①</p>	 <p>活動の様子②</p>
	 <p>燻製する食材</p>	 <p>燻製器</p>

【資料】

《火おこし体験》

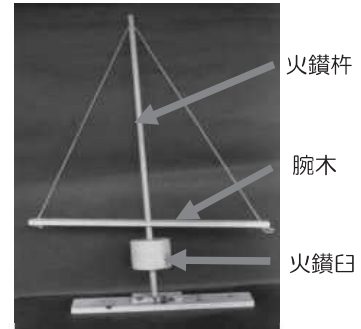
○火の歴史

人は火を調理に使い、暖をとり、獣から身を守ることに使ってきました。

最初は火を起こすことができず、野火などを利用していましたが、旧石器時代の頃から火を起こすようになったと言われています。

○まいぎり式 火起こし

- ①火起こしは、必ず屋外で、まわりに燃え移るものがないところでしてください。火を消すための水を用意してください。
- ②まず、はじめに、火鑽杵（ひきりぎね）のまわりに、ひもを回してからませます。
- ③腕木（うでぎ）を上下させ、火鑽杵を火鑽臼（ひきりうす）の中で回します。最初は、回すことに心がけ、調子がついてきたら、腕木を下に押し下すときに力を入れると、やがて煙が出はじめます。この時、炭化（たんか）した黒い粉が落ちるようになり、煙が立ち上がります。
- ④回し続けるのをやめても煙が立ち上っていれば、黒い粉の中に赤い火がきているので、息で静かに吹いていくと、火玉が見えます。（煙が出てすぐに回すのをやめず、たまった黒い粉の方に煙がよく立ち上るまで回し続けます。）
- ⑤麻ひもをほぐしたもののの上に④の火だねを置き、そっと息を吹きかけていくと、炎となって燃え上がります。



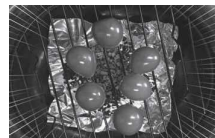
参考：日本の歴史「縄文の生活史」 講談社
フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

《燻製作り》

○燻製作りの歴史

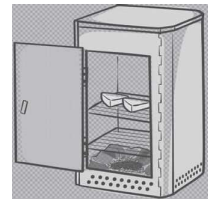
燻製は縄文時代の遺跡からも発見されています。当時の人たちは肉や魚を狩り、それを食べて生活をしていました。せっかく手に入れた食べ物も腐ってしまうと食べられません。腐らせないために、人々は燻製という方法で食べ物を保存するようになりました。

そのおかげで、食べ物に飢える人がへり、人類の発展に繋がりました。このように、燻製は人々の生活を支える重要な食物の保存方法となりました。



○燻製作りレシピ

- ①下処理
魚の場合は内臓をとることで、腐りにくくなります。
- ②塩漬け（しおづけ）
食材に塩をまぶします。そのことで、味付けはもちろん、殺菌効果があります。
- ③塩出し（しおだし）
食材から出てくる余分な塩や水分をキッチンペーパーでとり、生臭さを取り出します。
- ④乾燥（かんそう）
塩出しが終わったら、食材の水分をキッチンペーパーなどで十分にふき取った後に日光をさけて数日間陰干しするか、浸透圧脱水シートで包んで1日ねかせます。
- ⑤燻製（くんせい）
燻製作りのメインとなる工程です。食材にあった燻煙材を使って、食材を煙で燻（いぶ）します。
- ⑥熟成
燻製したばかりの食材をそのまま食べてもおいしいですが、一晩冷蔵庫でねかせたり、風通しのいい場所で乾燥させることで、ちがう香りや味も体験できます。



参考：日本の歴史「国の成り立ち」 小学館
フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

(3) 4年 理科「今日の星空を観察しよう」

活動の めあて	プラネタリウムで利用日に見える星や星座について理解し、実際の星空で星や星座を見つけることができる。
------------	---

◇ 学習過程と活動の流れ

学校での学習【5時間】

課題の発見

- ・月の1日の動きについて調べる。また、月の形の変化を観察する。
- ・星の1日の動きについて調べる。また、季節によって見える星や星座について調べる。

課題解決方法の検討、計画、実践

- 月の動きや形の変化について考えよう。
- ・月の動きや形の変化について考え、整理する。
- 星の動きや季節によって見られる星座の違いについて調べよう。
- ・星の動きや季節によって見られる星座の違いについて調べ、整理する。



施設での学習【2時間】

課題解決に向けた実践活動

- プラネタリウムや実際の星空で確認しよう。
- ・利用日の夜にみられる月や星、星座について理解する。
- ・月や星の動きについて理解する。
- ・特徴ある星や星座を観察する。

実践活動の評価の視点

- ・興味をもち、星空を観察することができる。
- ・ねらいが達成できたかを振り返ることができる。



学校での学習【1時間】

実践活動の改善

- ・活動を振り返り、月や星の動きについて考えを深める。
- ・月や星、星座について関心をもち、調べたことをまとめる。

家庭、地域での実践

- ・自身の地域でみることができる月や星について関心をもち、夜空を見上げる姿が見られる。

◇ 育成する資質・能力

知識及び技能


- ・月は日によって形が変わって見え、1日のうちでも時刻によって位置が変わることが理解できる。
- ・星には明るさや色の違いがあり、1日のうちでも時刻によって並び方は変わらないが位置は変わることを理解できる。

思考力、判断力、表現力等

- ・月や星の学習を通じて、既習の内容や生活経験をもとに、月や星の位置の変化と時間経過の関係について、根拠のある予想や仮説を立て、表現することができる。

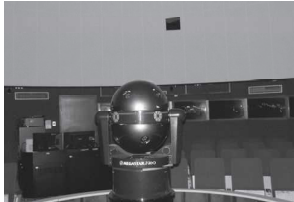





学びに向かう力、人間性等

- ・夜空に輝く無数の星に対する豊かな心情と天体に対する興味・関心をもつようにする。
- ・進んで月や星の特徴や動きを観察する意欲をもつことができる。

 **ワンポイント**

プラネタリウムや星空観察をとおして、利用日の星空の美しさや宇宙の雄大さを実感できる、心に残る活動になります。

プラネタリウム・星空観察会

概要	プラネタリウム鑑賞を通して利用日の星空を事前に理解した上で、望遠鏡や実天 観察を通して星空観察の楽しさを体感する活動である。		
ねらいとして 考えられること	①自然に親しむ心を育てるとともに、天体に関する興味・関心を高める。 ②星座や星、天体の動きなどについて理解できる。 ③夜空の美しさにふれさせ、環境について考える。		
対象及び教科等例	低学年から （理科、特別活動）		
人数	140名		
場所	プラネタリウム（プラネタリウム鑑賞） つどいの広場（星空観察）		
時間	1時間（プラネタリウム30分 星空観察30分）		
指導	進行：各学校及び団体 解説：九重青少年の家職員		
活動時期	通年		
経費	なし		
利用者準備物	夏季以外は、夜間の防寒対策が必要		
活動の 流れ ・ 引率者の 役割等	活動前	①所要時間と指導内容を確認する。 ②トイレに行かせる。 ③5分前までに廊下に静かに整列または入室させる。 ④大人数の時は、上履きを持って入室させる。 ⑤大人数の時は、奥の座席から座らせる。	
	活動中	①視聴の妨げになるような行為は注意する。 ②緊急の場合以外は、真っ暗になるので移動させない。 ③携帯電話（カメラ撮影を含む）等は利用させないことを徹底する。 ④星空観察場所への移動時は、暗く危険なので安全指導には十分気を配る。 ⑤望遠鏡での観察は人数制限があるので、施設職員の指示に従い安全な観察を行えるよう留意する。	
	活動後	①感想発表を行い、他者との感想交流を通して、他者の様々な感想に触れ自分の考 えを広げたり、他者の良さを認めたりすることができるようにする。 ②所内への移動時は、暗く危険なので安全指導には十分気を配る。	
安全上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・暗闇の中での活動なので、指示が伝わるよう落ち着いた上で活動に入ることに留意する。 ・緊急時は、後方の指導員に連絡することを事前に伝えておく。 		
活動の様子	 プラネタリウム室内	 プラネタリウム星座表示	 オリオン座大星雲
	 天体望遠鏡	 活動の様子①	 活動の様子②

(4) 全学年 体育「スキーにチャレンジしよう」

活動のめあて	<ul style="list-style-type: none"> ○基本練習を繰り返し、自分に合った斜面でプルークボーゲンができる。 ○ルールやきまりを守って安全に、互いに励まし合いながらスキーを楽しみ、よりよい人間関係を築くことができる。
--------	--

◇ 学習過程と活動の流れ

学校での学習【2時間】

課題の発見（課題の設定）

- ・スキーについて知り、チャレンジしようという意識をもつ。
- ・スキーの映像を見て、上手に、安全に、すべれるようになるために必要なことを考える。

課題解決方法の検討、計画、実践

- スキーをすべれるようになるための準備をしよう。
- ・体づくり運動をとおして、バランス感覚を養う。
- ・足を「ハ」の字にして足首を動かす練習をする。
- ・安全に運動するために気をつけることについて考える。

施設での学習【5時間】

課題解決に向けた実践活動

- スキーにチャレンジしよう。
- ・指導員から、スキーのすべり方の説明を聴き、安全に「うまくすべれるようになりたい」という意識をもつ。
- ・基礎編（午前）、応用編（午後）に分けて練習する。
- ・タブレット型端末の映像で自分のすべりを振り返り、弱点を克服するようめあてをもつ。
- ・友だちの良さや自分の良さも発見することも意識して活動に取り組む。
- ・自然に親しみ、楽しみながらスキーに取り組む。

実践活動の評価の視点

- ・めあてをもちすべれるようになるとチャレンジすることができる。
- ・自分や友だちの頑張りをみつけることができる。

学校での学習【2時間】

実践活動の改善

- スキー体験の発表会をしよう。
- ・すべりを発表し合い、お互いの頑張りと成果を認め合う。
- ・個々のめあてに対しての振り返りを発表し合う。
- ・友だちのすべっている姿や個々のめあての振り返り発表に対して、互いの頑張りを認め、感想を伝え合う。

家庭、地域での実践

- ・家庭でも、進んで他の運動に取り組む。

◇ 育成する資質・能力

知識及び技能


- ・スキー板を「ハの字」にして、スピードを抑えてすべったり、曲がったり、止まったりすることができる。
- ・自分に合った斜面で、プルークボーゲンができる。

思考力、判断力、表現力等

- ・プルークボーゲンの練習の仕方やそのポイントを知り、自分の力に合っためあてを決めて、滑降場所に応じた練習ができる。
- ・練習した成果を発表会で友だちに発表することができる。
- ・互いの意見を尊重し、意見交換をする中で、他者の意見を尊重し自分の考えをもち互いに伝え合うことができる。

学びに向かう力、人間性等

- ・具体的なめあてをもってスキー活動に積極的に取り組み、振り返りをしながら次のステップに意欲を持って取り組もうとする。
- ・友だちの頑張りを認め、ルールを守り、場や身の安全に留意して活動する。

 **ワンポイント**

すべれるようになりたいという願いをもちチャレンジすることにより、逞しく成長できる活動です。

スキー

概要	くじゅう森林公園スキー場で、自然に親しみ、自然の中でスキーをすることの楽しさを体感する活動である。	
ねらいとして考えられること	①冒険心や挑戦心を養う。 ②集団行動をとおして、協力する態度や安全に留意する態度を養う。 ③スモールステップでスキーの技術を習得し、達成感や成就感を味わう。	
対象及び教科等例	低学年から(体育、特別活動)	
人数	10名(1名のインストラクター指導可能人数)	
場所	くじゅう森林公園スキー場	
時間	4時間から	
指導	進行：各学校及び団体 指導：外部講師(スキーインストラクター依頼の場合有償)	
活動時期	くじゅう森林公園スキー場の営業時(12月中旬～3月中旬)	
経費	リフト代、スキーウェア、グローブ、ストック、スキー板等は自己負担 スキーインストラクターを依頼する場合は有償	
利用者準備物	防寒着(スキーウェア以外)、帽子(ニットキャップ)、医薬品	
活動の流れ・引率者の役割等	活動前	①事前の健康チェックを行い、必ずトイレに行かせる。 ②移動時は、列の先頭と最後尾には必ず指導者がつく。 ③スキー板は引きずらず、抱えて運ぶよう指示する。 ④準備体操(ストレッチ)を指導者の指示で行う際、必要に応じて個別サポートを行う。
	活動中	①「止まり方」「転び方」の練習について、必要に応じて個別サポートを行う。 ②板を「ハ」の字にしたプルークボーゲンの練習では、必要に応じて個別サポートを行う。 ③「転び方」の練習について、必要に応じて個別サポートを行う。 ④停止後は、後方の安全を確認し速やかにコースを離れさせる。
	活動後	①列の先頭と最後尾には必ず指導者がつく。 ②スキー板は引きずらず、抱えて運ぶ。 ③スキー板は汚れを落として保管場所に返却するよう指示する。 ④整理体操(ストレッチ)を指導者の指示で行う際、必要に応じて個別サポートを行う。
安全上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・「コース以外では絶対に滑らない」「前者が滑走コースに居ないことを確認後、後者がスタートする」ための事前指導を徹底する。 ・年齢や上達の度合いに応じてスタート地点やコースを変更する場合は考えられるので、指導者との連絡・連携を密にとり安全なエリアの確保を図る。 	
活動の様子	 <p>スキー場全景</p>	 <p>練習の様子①</p>
	 <p>練習の様子②</p>	 <p>練習の様子③</p>

(5) 全学年 体育「フィールドアスレチックにチャレンジしよう」

活動の めあて	九重アスレチックコースを活用して、瞬発力、筋力、持久力、柔軟性、平衡性など身体能力を養うことができる。
------------	---

◇ 学習過程と活動の流れ

学校での学習【1時間】

課題の発見（課題の設定）

- ・フィールドアスレチックについて知り、チャレンジしようという意識をもつ。
- ・フィールドアスレチックの写真を見て、ポイントをクリアするために必要な動きを考える。

課題解決方法の検討、計画、実践

- ポイントをクリアするための準備をしよう。
- ・学校にある遊具や施設を活用して、独自のアスレチックコースを作り、体づくり運動をとおして体力を高める。
- ・安全に運動するために必要なことを考える。

施設での学習【2時間】

課題解決に向けた実践活動

- フィールドアスレチックにチャレンジしよう。
- ・指導員から、安全な運動の仕方の説明を聴き、安全に運動したいという意識をもつ。
- ・チャレンジしたいスタートポイントを決め、グループでチャレンジする。
- ・友だちの良さや自分の良さも発見することも意識して運動に取り組む。
- ・グループの中で、発表したいポイントの動きを、タブレット型端末で映像を撮影しておく。

実践活動の評価の視点

- ・ポイントをクリアしようとチャレンジしている。
- ・自分や友だちの頑張りをみつける。

学校での学習【1時間】

実践活動の改善

- アスレチックの発表会をしよう。
- ・映像をもとに、お互いの頑張りと成果を認め合う。
- ・アスレチックでつけた力を生かせる運動について考える。

家庭、地域での実践

- ・家庭でも進んで他の運動に取り組む。

◇ 育成する資質・能力

知識及び技能

- ・瞬発力、筋力、持久力、柔軟性、平衡性など身体能力を養うことができる。

思考力、判断力、表現力等

- ・友だちとともに運動に取り組み、互いのよい動きを模倣したり、他者の動きの良い点を発表会で伝えることができる。

学びに向かう力、人間性等

- ・一緒に運動する人とのコミュニケーションを深めながら、運動することの喜びを感じることができる。



ワンポイント

グループで協力し合ってクリアする喜びと、体を動かす楽しさを実感できる活動です。

フィールドアスレチック

概要	開放感にあふれ見晴らしのよいフィールドの中で、九重山群一帯に広がる高峰・渓谷・史跡・温泉郷などになぞらえた30基の遊具を楽しむ活動である。		
ねらいとして考えられること	①九重アスレチックコースを活用した体力を高める運動をとおして、瞬発力、筋力、持久力、柔軟性、平衡性など身体能力を養うことができる。 ②体を動かさず心地よさを味わったり、ともに活動する人とのコミュニケーションを深めたりしながら、協力して活動することの喜びを感じることができる。		
対象及び教科等例	低学年から（体育、特別活動）		
人数	200名程度まで		
場所	アスレチック場		
時間	30分～1時間30分		
指導	進行：各学校及び団体 指導：各学校及び団体		
活動時期	厳冬期以外		
経費	なし		
利用者準備物	なし		
活動の流れ ・ 引率者の役割等	活動前	①トイレに行かせる。 ②指導者は、「ロープの握り方」「坂道を走らず移動すること」等を含む安全指導と、友だちと協力して運動を楽しむ心構えについての事前指導を行う。	
	活動中	・児童が安全に気をつけて活動しているかを確認し、適宜指導する。	
	活動後	①児童の健康観察を行う。 ②感想発表を行い、他者の良さを認めたり、他者から認められたりした等の感想交流をとおして、他者の良さや自分の良さを認めることができるようにする。	
安全上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階や運動能力・体調等を考慮し、無理をさせない。 ・降雨や落雷の発生時は、直ちに活動を中止し館内に避難する。 ・遊具や周りの地面が乾いていない場合は、滑りやすいので注意させる。 		
活動の様子	 <p>鐘つき</p>	 <p>九重温泉郷めぐり</p>	 <p>活動の様子①</p>
	 <p>活動の様子②</p>	 <p>活動の様子③</p>	 <p>活動の様子④</p>

(6) 5年 特別活動「おにぎり山ウォークラリーにチャレンジしよう」

活動の めあて	友だちとともに自然に親しみながら協力してポイントを見つけ問題を解くことにより、よりよい人間関係を築くことができる。
------------	---

◇ 学習過程と活動の流れ

学校での学習【1時間】

課題解決に向けた実践活動

○ウォークラリーについて知り、チャレンジしようという意識をもつ。

- ・ウォークラリーをとおしてのめあてを考える。
- ・友だちの良さや自分の良さも発見することも意識する。

実践活動の評価

○楽しみながら協力してゴールするための準備をしよう。

- ・コマ図の見方を学習したり、おにぎり山で見つけることのできる動物や植物について調べたりする。
- ・安全に活動するために必要なことを考える。



施設での学習【2時間】

課題解決に向けた実践活動

○ウォークラリーにチャレンジしよう。

- ・施設職員から、活動の説明を聴き、協力して安全に活動し、問題を解き指定された時間に戻ってくるという意識をもつ。
- ・友だちの良さや自分の良さも発見することも意識して活動に取り組む。
- ・自然に親しみながら、協力してウォークラリーに取り組む。

実践活動の評価

- ・グループで協力して、コマ図を頼りにポイントを見つけ、問題を解く。
- ・指定された時間にゴールできるように、歩調を合わせて活動する。
- ・グループの友だちの良さをみつける。



学校での学習【1時間】

実践活動の改善

○活動の振り返りをしよう。

- ・指定した時間にゴールすることや安全に活動することを意識して友だちと協力できたか。
- ・友だちの良さや自分の良さを見つめることができたか。

家庭、地域での実践

- ・友だちと協力して他の活動に取り組む。
- ・家庭や地域の活動に積極的に取り組む。
- ・地域の自然環境に対して、関心をもつ。

◇ 育成する資質・能力

知識及び技能


- ・自然の中でウォークラリーに取り組む楽しさを味わい、コマ図の見方を理解するとともに、協力して取り組む姿勢を身につけることができる。

思考力、判断力、表現力等

- ・グループの友だちの体力に配慮したペース配分を考えながら、活動することができる。
- ・他者の意見も尊重しながら、自分の考えをもち、友だちに伝えることができる。



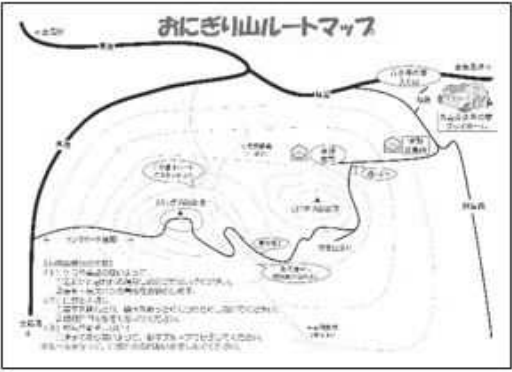
学びに向かう力、人間性等

- ・一緒に運動する人とのコミュニケーションを深めながら、運動することの喜びを感じることができる。

 **ワンポイント**

九重の豊かな自然の中で、子どもどうしが楽しみながら協力することの大切さを実感できる活動です。

ウォークラリー

概要	分岐点のみを表したコマ図を使い、あらかじめ決められたチェックポイントに設けられた問題を順番に解きながら、決められた時間までに戻ってくる活動である。	
ねらいとして考えられること	①九重の自然に親しむ。 ②班員で協力しながら課題を解決していくことで、連帯感を養う。 ③長い距離を踏破することでやり遂げた充実感を味わう。 ④課題を解決するための注意力と観察力を養う。	
対象及び教科等例	小学校中学年から（特別活動）	
人数	200名程度まで（1班5名程度）	
場所	人数に応じた場所（プレイホール・研修室など）に集合 おにぎり山コース	
時間	70分～90分	
指導	進行：各学校及び団体 説明：九重青少年の家職員（研修者へ 図の見方と解答の仕方） ※引率者へ事前に本部・看視者の役割を決めておく。	
活動時期	厳冬期以外	
経費	なし	
利用者準備物	筆記具（班の代表者）、帽子、カップ、水筒、タオル、活動しやすい服装（長そで長ズボン）	
活動の流れ・引率者の役割等	活動前	①指導員と採点基準・方法、引率者の役割分担を確認する。 ②用便を済ませ、班ごとに整列させる。 ③物品（ビブス、コマ図、解答用紙、用箋挟み）を配布する。
	活動中	<本部> ①看視者と適宜連絡をとり、緊急事態の場合は事務室に連絡する。 ②ゴールした班から物品を返納させ、採点する。 ③全員がゴールするまで安全に待機させる。 <監視> ①班が視界に入った時から歩行の様子を把握し、問題点があれば指導する。 ②看視指導者の地点で一旦集合させ、研修生の健康観察を行う。 ③貸与された無線機を使って、適宜本部や他の看視者と連絡を取り合う。
	活動後	①貸出物品の確認、事務室に返納する。 ②優秀班の表彰及びふりかえりを行う。
安全上の留意点	・夏季は特に熱中症対策をする。（帽子の着用、水筒・タオルの携帯など） ・山中を歩くので長袖などを着用し、虫さされ薬を用意するなどの対策をとる。 ・体調不良者がある場合、緊急連絡及び搬送の対策をとる。	
活動の様子	 <p style="text-align: center;">活動の様子①</p>  <p style="text-align: center;">活動の様子②</p>	 <p style="text-align: center;">おにぎり山ルートマップ</p>